

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105750
法人名	有限会社イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき2
所在地	松山市北斎院町947-1
自己評価作成日	平成26年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年5月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

散歩を日課とし、悪天候以外はほぼ毎日戸外に出ている。その際にも近隣住民と挨拶や会話をすることで、利用者が地域の一人としてホームでの生活を送る事が出来る様に努めている。又、充実した毎日を送る事が出来る様に、日頃から利用者と共に密に関わりを持ち、利用者の希望や要望を具現化していける様に努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

以前、法人でデイサービスを運営していた頃、利用者から、「自由にさせてほしい」「放っておいてほしい」と言うような声が多かったことがあり、個々の希望や要望を十分に反映した支援に取り組みたいとグループホームを開設された経緯がある。法人代表者は、職員が集まるミーティング時に、「笑顔、親切、優しく」等の職員の心得を話して、理念の実践に向けて導いておられる。  
開設して初めての自己評価は、全職員で取り組み、管理者とケアマネジャーがまとめ、職員はグループホームに求められていることを知ることに繋がったようだ。  
食事作り専門の職員を配置して、事業所で食事を作っておられる。利用者の好みや旬の食材を採り入れ、事前に一週間分のメニューを立て、利用者は野菜の皮むき等にかかわっておられる。調査訪問時には下膳する利用者の様子が見られた。職員からの提案で、食前に口腔体操を行うことを始められた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○ 1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. <b>数日に1回程度</b> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらい</b> 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらい</b> 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○ 1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

**サービス向上への3ステップ**

**事業所名** 有限会社 イヨメディカル

**(ユニット名)** グループホーム みゆき2 (1F)

**記入者(管理者)**

**氏名** 松本 カホル

**評価完了日** H26年 5月 1日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  理念を全職員が見える場に掲示し、又ミーティングの時に全員で唱和するなどして介護業務をする上での基本姿勢として周知徹底実践につなげている。	
			(外部評価)  以前、法人でデイサービスを運営していた頃、利用者から、「自由にさせてほしい」「放っておいてほしい」と言うような声が多かったことがあり、個々の希望や要望を十分に反映した支援に取り組みたいとグループホームを開設された経緯がある。事業所は、系列グループホームと同じ理念・方針、家訓を掲げており、法人代表者は、職員が集まるミーティング時に、「笑顔、親切、優しく」等の職員の心得を話して、理念の実践に向けて導いておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  行事の参加、買い物(スーパー等の利用)散歩、ゴミ出し場の清掃回覧版、町内会費、運営推進会議、町内会長、民生委員、見守り隊の協力等を通して地域の一員としての自覚を持って交流できている。	
			(外部評価)  近くの公園まで散歩したり、ごみ出し場所の掃除等を通じて、近所の方達と顔見知りになっており、運営推進会議へ参加してもらったり、時には、ご自宅で採れた果物等をおすそ分けして下さることもある。昨秋、事業所でもい炊き会を行った際には、お誘いして一緒に楽しまれた。現在、事業所の側の河川敷に花を植え「地域の方達に楽しんでほしい」と、県に申請しているところである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議などの機会を通して、近況報告をしたり、ホームの行事等(防災訓練・季節の行事)に参加して頂く中で、認知症に対する理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      どのような意見も真摯に受け止め前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)                      1階会議室で会議を開催されており、避難訓練や勉強会、家族会と併せて行っておられ、町内会長や民生委員、高齢者見守り員、ご家族等が参加されている。事業所からの近況報告について、利用者の暮らしぶりや、職員が困っていること等を具体的に報告して、参加者と意見交換されている。ご家族から離職が多いことについて意見があった際には、施設長から「処遇改善して職員が仕事のしやすい環境作り」に心掛けます」と返答された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      今後一層努力していきます。</p> <p>(外部評価)                      市の担当者の方は運営推進会議に参加して、事業所の取り組みを聞き、アドバイス等をされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      センサーマットやベル、鈴等を活用して転倒や転落の防止に努めると共に、見守りを強化し、目配り気配りを怠らず、可能な限り身体拘束をしない方向でケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)                      今年5月、地域包括支援センター主催の身体拘束や虐待についての勉強会に管理者やケアマネジャーが参加して、より具体的な身体拘束行為について学ばれた。事業所では玄関は施錠していないが、職員の手不足等もあってユニット入口の戸を施錠している。今回、外部評価の訪問調査時の話し合いをきっかけに、事業所では、戸にガラス窓部分を作り、利用者の様子が見えるようにして、解錠することを計画された。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者が安心して穏やかに過ごしていただけるような環境作りに日頃から努めており、特に職員の言動については相互に注意を払っている。 この件の研修にも参加の方向で努力している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する勉強会は現時点では設けていないが、今後勉強会などで議題に取りあげ理解を深めていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用前、利用中いつでもいかなる疑問や不安に対しても納得していただくまで丁寧に説明し、誠心誠意対応している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望は真摯に受け止め迅速に対応している。職員参加のミーティングや運営推進会議等の機会に報告し運営に反映させていけるよう努めている。	
			(外部評価) 「家族会」を運営推進会議やいも炊き会、クリスマス会等の行事と併せ行っておられる。運営推進会議時、ご家族から、「口頭での報告だけでは様子が分からない」と意見があったことをきっかけに、事業所では3ヶ月ごとの事業所作りを始められた。便りを見たご家族から、「大事にしてくれているのが分かる」との感想もあったようだ。ご家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりを見ていただけるよう、写真を掲示されており、又、介護記録を見てもらったり、帰り際には「どうだったですか」と声をかけ、意見を引き出せるよう取り組まれている。	利用者に毎週会いに来られるご家族もいるが、現在、足遠いご家族もおられるようだ。ご家族の知りたい情報を探り、情報発信に工夫をしたり、ゆっくりお話する機会を作り、関係作りに努める等して、ご家族と一緒に利用者の暮らしを支えられるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。ご家族が意見や要望を出しやすいような仕組みが作れているか点検され、取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの他、その都度職員意見や提案を傾聴しており会議の場又はユニットごとの小集団の場で確認し合い介護の現場で実践していくように努めている。	
			(外部評価) これまでは職員の入れ替わりも多々あったが、現在は落ち着いてきており、職員それぞれに利用者を担当したり、業務の役割を決める等、責任を持って取り組めるような仕組みを作っておられる。又、職員の提案は企画書にまとめ、皆で話し合い、決めるようになっている。開設して初めての自己評価は、全職員で取り組み、管理者とケアマネジャーがまとめ、職員はグループホームに求められていることを知ることにつながったようだ。法人では、職員の資格取得時には、費用を半額負担する等して、職員のスキルアップを応援されている。	今後もさらに、職員の定着やチームワーク作りに向けた取り組みをすすめていかれてほしい。職員自身が気付くことは、ケアサービスの質向上への最大の起点にもなる。職員が日々ケアを点検しながら、さらに向上していけるような仕組み等も工夫されてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会への参加、又、各職員の力量を見極め役割分担を設ける事で、職員の意欲向上に努めている。役職の起用により、特別手当及び昇給等を設けている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 系列のグループホームの職員同士の交流が多少はあるが、それ以外での同業者との交流はすくない為、今後研修などを通して同業者との交流を深めていきたい。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまで本人又は家族から情報を集めている。本人との関わりの時間を多く持つように努め、生活に対する要望や、困っている事を傾聴し、ケアプランに結びつける事で、安心して生活出来る環境作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入所時に希望・要望等を伺い、安心して相談して頂ける様な雰囲気を作り、速やかに対応できるよう努めている。
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	本人、家族との会話や関わりの中でその時々が必要としている支援を把握し、ミーティング等を通して職員間で周知し、実行を遅らせないように対応している。
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	出来る限り密に関わる時間を取る事で、利用者の方の持っている力を把握し、それを最大限発揮出来る環境作りに努めている。
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	面会時は一緒にゆっくり過ごして頂ける環境を整えている。又、電話連絡時等は近況をお伝えし、家族からの助言・アドバイスを頂く事で共に支えていく関係作りに努めている。
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	家族にも今までの生活スタイルを聞き馴染みの人、今まで過程で使ってきた馴染みの物を持ち込んで頂いたり馴染みの人、物、場所などの関係の継続に努めている。
			(外部評価)	
			「妹に会いたい」等、利用者の希望を受け、会いに行けるよう支援するようなケースもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングにて過ごしていただく時間を多くし、食事以外でも他者との交流が図れるように努めている。又、散歩やレクリエーションを通して他者との関係の構築を図っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も利用者の家族と関わる場があり、本人の様子をお聞きしたり、必要によっては相談等に応じる事で関係を断ち切らないように努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを密に取る事で信頼関係の構築に努め、何気ない会話の中から本人の要望や意見などを聴き出し、職員間で周知し、実施に向けての取り組みを行なっている。意思疎通の困難な利用者に関しては表情や、態度から思いを汲み取れるよう努めている。 (外部評価) 事業所では、利用者ご本人の希望や要望を大切にされた支援を目指しておられる。法人代表者は、「好きな食べ物を食べることや、やりたいことをやること等、当たり前のことを続けられるような支援を行ってほしい」と話しておられた。アセスメント表は、利用者の「したいこと・望み、介護への願いと希望・嬉しいこと・楽しいこと、ターミナルへの希望」等の情報を集める様式で、現在、情報収集中であった。	今後さらに、利用者が意欲や自信を持って主体的に暮らせるよう、職員一丸となって情報収集をすすめ、介護計画につなげて支援に取り組まれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前には管理者が本人、家族等からこれまでの暮らしや生活歴などを聞き、入居してからは関わりの中から本人の想いを聞きだせるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録等を活用し、一日の過ごし方を把握している。生活の中でも、本人の得意とする事に焦点を当て、実施して頂く事により自信回復等にも努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各入居者に担当職員をつけ、計画作成担当者と共にプランを作成し、ミーティング時など全職員で検討している。又、状態の変化などがあった場合などはその都度見直しをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者個々の担当職員が案を作り、ケアマネジャーがまとめて、ご家族に送付して、意見を聞くようになっている。ケアマネジャーは、「実態に即した現実的な計画作り」を心がけておられる。ご家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーでもあり、今後は、利用者のケアや暮らしについて、ゆっくり話しよう機会を持ってみてはどうだろうか。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別に生活記録を記載し、気づきやケアのヒント等は申し送りノートを活用している。又、ケアプランの期間に応じて、評価・見直しを行なっている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>体調不良時の通院介助等、必要に応じて家族の代わりに支援している。その他の個別の希望としては家族と相談しながら対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に民生委員や町内会長、包括支援センター、介護保険課、市社協等の出席が得られ、理解を深めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族が希望する医療機関で受診が出来るように支援している。又2週間に1回の往診、急変時には即座に連絡が取れ、対応が出来る体制が整っている。</p> <p>(外部評価) 定期的な往診を受けている利用者や受診する利用者には、職員が同行して支援されている。体調変化等があれば、協力医が往診に来てくれる体制がある。利用者の健康状態については、事業所で管理をされているが、ご家族との情報の共有や協働について考えてみてはどうだろうか。持病のことや薬のこと等についても、一緒に勉強するような機会を作ってはどうか。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日常的に利用者の健康状態をホーム内の看護師に報告し必要に応じた支援をしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 長期入院により、重度化しないように、病院と密に連絡を取り合い、利用者の状況を把握するようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ターミナルケアのマニュアル、同意書を作成し、入居時などに本人、又は家族等に説明をし、同意を得ている。急変時等はすぐに対応できるように、協力医療機関と連携が図れている。</p> <p>(外部評価) 入居説明時には、「看取りに関する指針」に沿って説明し、医療行為はできないこと等も話し、「看取り介護についての同意書」にて、終末期の希望を聞いておられる。現在、ご家族は、「最期は病院で」との希望が多く、急変時等には救急車を呼ぶ等して病院につなぎ、支援されている。調査訪問時、介護度重度の利用者の食事は、とろみをつけたり、ミキサー食にして、職員は時間をかけて食事介助をされていた。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作成し、職員全員周知できるように努めている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防訓練を実施し、災害時などは地域の方から救助して頂ける体制を整えている。又、緊急連絡網を使用している訓練等も定期的に行い、防災に対する職員の意識向上にも努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議の機会を捉えて、避難訓練を実施したり報告を行ったりして、参加する地域の方達にいざという時の協力をお願いされている。今年4月には、実際に職員の緊急連絡網を回す訓練も行われた。今後はさらに、地震や水害等、いろいろな災害の場面を想定して訓練を重ね、地域との協力体制作りについても具体的に取り組みをすすめていかれてほしい。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの性格を考慮し、その時々状況に応じた声掛けに配慮している。ミーティングの際にも具体例を挙げ職員の意識付けを徹底している。	
			(外部評価) 事業所では、笑顔で優しく、親切にケアすることを目指しておられ、調査訪問時、声のトーンや早さ等、利用者への対応に配慮が見られた。職員は利用者が席に座っている様子を見て、何かやりたいことがあるか、それとも、静かに過ごしたいのかを見極めて言葉をかけるようにされている。又、トイレ使用時には、ドアを閉めて排泄できるよう、職員は気を付けて支援されている。居間の壁には利用者のお誕生日の日を掲示して、月ごとにお誕生会を行っておられる。さらに、利用者やご家族とも相談しながら、一緒にお祝いできるような機会も作ってはどうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを引き出せるような関わりに、重きを置いている。憶測で行動するのは慎み、自己決定までの時間を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			声掛け等にも選択性を持ち強制的にならないように心掛け ている。本人の意見を大切に、希望に応じた支援をしてい る。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	
			戸外へ出掛ける事や人前に出たくなるように、起床時には利 用者の方と洋服を選んだり、化粧の支援などをしている。 又、定期的に訪問美容を使用している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			利用者に合わせて、食事形態を刻み食やミキサー食等に している。又無理のないように食器の片付けや下膳等して頂 いている。	
			(外部評価)	
			食事作り専門の職員を配置して、事業所で食事を作ってお られる。利用者の好みや旬の食材を採り入れ、事前に一週 間分のメニューを立て、利用者は野菜の皮むき等にかか わっておられる。職員も同じものを食べておられ、食事介助 の必要な方も、できるだけ自分で食べることができるよう自 助具を用意したり、食事形態を工夫しており、職員はご本人 の様子を見ながら介助等してサポートをされていた。調査訪 問時には下膳する利用者の様子が見られた。職員からの提 案で、食前に口腔体操を行うことを始められた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			一日に必要な食事が摂取できるように努めている。又食事 だけでは十分に摂取できない方がいる場合は主治医と相談 し、栄養補助食等の処方を受け柔軟に対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			口腔ケアは誤嚥性肺炎の重要な予防策になる為、毎食後口 腔ケアは行い、必要な方は介助にて清潔保持を保ってい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、スムーズな排泄が出来るように努めている。また夜間などはポータブルトイレを設置するなど利用者の状況に応じた対応を行なっている。	
			(外部評価) 時間ごとに誘導して支援したり、転倒しておむつを使用することになった利用者には、立ったり座ったり、廊下で歩行練習をする等しながら、トイレで排泄できるような支援に取り組まれている。居室のポータブルトイレには、利用者が認識しやすいように「トイレ」と貼り紙をしているところもあった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日常的に体操や散歩などにも出掛け、腸の活性化を図っている。又、一人ひとりにの排泄パターンを把握し、定期的に声掛けや誘導を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて、介助方法、介助者の人数を変えたりしている。時間帯はほぼ決まってしまうが要望に応じて柔軟に対応できるように努めている。	
			(外部評価) その日のリーダー職員が、利用者の状態やスケジュール等を踏まえて午前か午後に入浴時間を決め、利用者個々に一週間に2回以上入浴できるよう支援されている。入浴へ誘うと嫌がる利用者も多いようだが、職員は、浴室の隣にあるトイレ使用后、そのまま脱衣所に誘い、入浴を促す等して支援されている。利用者は入浴すると「気持ちよかった」と喜ばれるようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動内容を増やし、夜間の安眠に繋げている。又、日中等も、本人の体力等を考慮し、居室で横になる時間を設けたりしている。	
			(外部評価)	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬が一目で分かる用に医務ノートを設け、効能等を理解出来るように配慮している。又服薬時には、手渡し、飲み込みの確認を行なっている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの持っている力を把握し、発揮出来る環境作りに取り組んでいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩を取り入れながら、なるべく戸外に出掛けるように努めている。又、個人の要望に応じて、買い物・外食・美容室など行きたい場所へ行けるように支援している。	
			(外部評価) 事業所は、散歩を日課にしておられる。2階ユニットの利用者は、外に出ることをめんどろに思う方もあるようだが、駐車場でのひなたぼっこ等、外に出ることを支援されている。又、ドライブに出かけたり、希望があれば買い物や、姉妹に会いに行くことを支援することもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭に関しては事務所で管理しているが、買い物等に出かけた際にはご自分で支払って頂いている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の要望に応じて、電話・手紙のやりとりを行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>壁の飾りつけや季節の花を飾る際、環境の変化により生活に混乱を招かないよう、利用者と一緒にになっている。気温や臭いにも配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所周辺は、新しい住宅やアパートが多く、若い世代が多い地域ようだ。事業所の玄関のプランターでは、色とりどりのお花を育てておられ、廊下等にも造花等の花を飾っておられた。居間のテーブル席の椅子には、名前を書いている席もあった。壁には、文字盤の大きい時計がかけられてあり、時計の周りは折り紙の輪飾りで囲んであった。廊下は広めの造りで、調査訪問時には、シルバーカーを押して居室と居間を行き来する利用者が見られた。建物内の会議室は、運営推進会議やご家族来訪時等に使用されている。今後はさらに、利用者の活動意欲に働きかけるような環境作りや、ご家族来訪時にくつろいで過ごせるような共用空間作り等にも工夫されてはどうか。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>生活環境の中にも、個人に合わせ座りやすい椅子を用意し、利用者同士の相性を考慮したうえで座席を決め、居心地の良い、過ごし易い場所になるように考慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの家具・寝具・衣類・仏壇等自由に持ち込んで頂き、本人好みの部屋になるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、2階ユニットは、居室の戸を開けておられた。折り紙の飾りやマスコットで飾り付けている居室も見られ、他利用者の方が「いつも見て楽しませてもらっているのよ」と話しておられた。母の日にご家族からプレゼントしてもらったカーネーションを飾っている居室も見られた。使い慣れた鏡台の前で、身だしなみを整える方もおられる。ご家族やご自身のお若い頃の写真を飾っている方もおられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ・浴槽・廊下等手摺りを設置し、手摺りを使用して立つ事のできる方の助けになっている。又車椅子、歩行器等を準備し、体調に合わせて使用することが出来、安全且つ自立できるように努めている。</p>	